

中晩かんタイへ輸出

三重・伊勢 J A 伊勢 選別しっかり高品質に

【三重・伊勢】J A 伊勢三重南紀経済センター営農柑橘（かんきつ）グループは25日、タイ王国への中晩かんの輸出に向けて輸出検査と出荷作業を、御浜町にある統一選果場で行った。輸出したのは、御浜町と紀宝町で収穫した「不知火」約3トとハウス「せとか」4・4ト。選果・選別をして品質の高い果実をそろえた。

検査では、農水省の植物防疫検査官2人が、無作為に選んだ果

実約600個を一つずつ手に取り、病虫害や傷がないかを確認し「不知火」330㌔

（1㌔9キ）と「せとか」880㌔（1㌔5キ）は、取引商社3社を通じて同国に送る。

同国では富裕層をターゲットに、大手百貨店や大型小売店で販売する。販売単価は、日本国内の相場の2、3倍を見込む。

J A 営農柑橘グループの古芝正樹副グループ長は「夏季の干ばつや冬季の寒さが厳しく、生育に遅れがみられたが、輸出開始を例年に比べて1週間ほど遅らせることで、味・品質ともに良い果実に仕上がった。タイ王国の消費者においしい不知火とせとかを、食べてもらいたい」と話した。

輸出を前に「せとか」を入念に検査する検査官

